

農業体験ツアーで移住のススメ

仙北市とJR東日本秋田支社がタッグ

3月14日、仙北市とJR東日本秋田支社(菊地正支社長)が連携し、市内農地の有効活用や移住・定住を促進する『五感楽農』事業発表に伴う共同会見が開かれました。



この事業は、JR東日本の強みである秋田新幹線を交通手段に、首都圏などの方々から農業を楽しみながら、地域の住民と交流をしたり、いずれは移住・定住までをサポートしたりするものです。市役所田沢湖庁舎で開かれた会見には、受入れや農業指導にあたる仙北市農山村体験推進協議会の会員などが出席しました。菊地支社長は「今回のように本格的な移住・定住サポート事業は、JRとしても経験がありません。仙北市はグリーンツーリズムが活発で、観光地としても魅力的です。きつと交流人口の拡大に貢献できると思います」と話しました。今後は、本格的なツアーの実施に向け、同社の「大人の休日倶楽部」会員を対象に、田舎暮らし講座を首都圏で3回開催した後、仙北市内を舞台にトライアルツアーを実施する予定です。

第6回 田沢湖公民館まつり

3月14日・15日の両日「第6回田沢湖公民館まつり」が田沢湖総合開発センターで開催されました。

14日からは、公民館講座や市民生活講座で学んだ編み物やパッチワークなどのほか、貴重な写真が多数展示されました。15日は、コール若葉の皆さんによる美しいハーモニーやゆっくりとした動きが特徴の太極拳を太極拳田沢湖の皆さんが披露したり、座ってできる健康体操を行う「スマートフォン体操教室」やアコースティックソングギターで優しい音色を奏でる「認知症カフェの活動と癒しのギター」などの特設講座が開催され、多くの来場者を楽しませていました。



コール若葉の皆さんによる美しいハーモニー。

青山学院大学生と体験交流活動



中学校の英語の授業。生徒からは「優しく丁寧に教えてもらったので、とても楽しかった」との感想が聞かれました。

平成28年度に包括連携協定を締結したことが縁で、青山学院大学の学生やスタッフ29人が、2月に2回にわたり仙北市を訪れました。学生は期間中、一人暮らし高齢者宅の除雪ボランティアや小・中学校で英語の授業への参加など、交流活動を行いました。除雪作業では、本格的な積雪を見たことがない学生ばかりで、雪国の生活の一端を経験し、冬の暮らしの大変さを実感しました。中学校の英語の授業では「地域の魅力や特色」という課題に、生徒と一緒に取り組み、書き方や表現方法などをアドバイスしていました。

第61回全国学芸サイエンスコンクール

西明寺小学校

くりっこサイエンスクラブ

金賞受賞



左から門脇市長、荒川憲二郎校長、佐々木愛蕾さん、顧問の伊藤昭光教諭。

全国の小・中・高校生の研究やアート、文芸の振興奨励と青少年の個性の育成を目的に毎年実施されている「第61回全国学芸サイエンスコンクール」で西明寺小学校のくりっこサイエンスクラブがフジテレビ学校特別奨励賞とサイエンス分野理科自由研究部門で最優秀となる金賞を受賞しました。8人の子どもたちからなる同クラブは、6年の佐々木愛蕾さんが疑問に思っていたお風呂の水を早く抜くためにはどうしたらよいかを研究テーマとし、実験を重ね検証を行いました。検証の結果、うずをできるだけ作らないことが水を抜く時間の短縮につながるということがわかり、この研究成果が評価され、全国1万5422点の中から見事金賞を受賞となりました。

3月9日、東京都で行われた表彰式に同クラブの代表として出席した佐々木愛蕾さんは「全国のコンクールの受賞はびっくりしたけど、とても嬉しい」と受賞を喜んでいました。また、子どもたちの指導にあたった顧問の伊藤昭光教諭は「子どもたちは夏休みも自主的に学校に出て何百回と実験を行った。子どもたちの頑張りのおかげで今回の受賞につながった」と話していました。

第70回 優良公民館表彰受賞

文部科学省では、毎年全国の公民館のうち講座内容等に工夫をこらし、地域住民の学習活動に大きく貢献している公民館等を優良公民館として表彰しており、このたび田沢湖公民館(佐々木幸美館長)が受賞しました。

田沢湖公民館では、自主学習グループの活動支援を中心に、地域の学習ニーズに応じた様々な公民館事業を展開し、事業によって市民同士の世代を超えた交流を図りながら地域の活性化に取り組んでいることが評価され、今回の受賞となりました。



左から田沢湖公民館をけん引する佐々木館長、熊谷教育長。

元村祐爾さんが交通安全功労者全国表彰



元村祐爾さん(前列左)と奥様のキノ子さん(同右)。門脇市長(後列左)と仙北地区交通安全協会の稲田修会長(同右)。

1月19日、東京都で開催された「第58回交通安全全国国民運動中央大会」で元村祐爾さんが交通安全功労者として全国表彰されました。

元村さんは、長年にわたり地域の交通安全に尽力されたことが認められ今回の受賞となりました。また、奥様のキノ子さんには、祐爾さんの長年の活動に協力されたとして同大会より感謝状が贈られました。

受賞の報告に訪れた元村さんは「今後も皆さんの模範となる安全運転を心がけ、地域の交通安全活動を行っていききたい」と話していました。

秋田県飲酒運転追放等競争

仙北市が秋田県知事表彰



前列左から門脇市長、仙北地域振興局の渡辺局長。  
後列左から仙北地区交通安全協会の稲田修会長、仙北市交通指導隊の佐藤義彦隊長、仙北市交通安全母の会の草薙良子会長、仙北地区安全運転管理者協会の鬼川慈郎会長。

このたび、秋田県飲酒運転追放等競争で、仙北市が秋田県知事表彰を受賞しました。  
この表彰は、秋田県が飲酒運転の根絶のために行っている「秋田県飲酒運転追放県民運動」の一環として、1年間の飲酒運転の違反・事故件数等で、優れた成績を挙げた市町村が表彰されるものです。仙北市は、関係機関と連携し飲酒運転追放への活動を推進し、昨年より飲酒運転の違反・事故件数が5件減り、順位を17位から4位に上げたことが受賞の理由です。

3月7日には、日頃から市内の交通安全にご尽力いただいている関係者が集まり、仙北地域振興局の渡辺局長より表彰が伝達されました。  
渡辺局長は「昨年からの飛躍的に順位を上げた大きな成果は、皆さまの地道な活動の賜物です。飲酒運転の追放は交通安全で大事なことであり、県民一人ひとりに深く浸透しなければなりません。重要になってきますので、今後とも安全安心なまちづくりを続けていただきます」と話しました。

『河正雄文庫』がリニューアルオープン記念寄贈絵画展

3月7日、田沢湖図書館「河正雄文庫」はリニューアルのご報告を兼ねて、新たに、河正雄氏から寄贈された絵画7点をご披露する寄贈絵画展を開催しました。

当日のオープニングセレモニーは河氏ご夫妻と門脇市長によるテープカットに始まり、河氏の講演と絵画解説のギャラリートークが行われ、およそ40人の出席者は歓談しながら、河氏の芸術文化に対する深い思いに聞き入っていました。

「文庫」の常設展示室は、河氏のアーカイブ資料と共に、絵画も鑑賞できるギャラリーへと生まれ変わりました。ぜひ一度、足を運んでお楽しみください。



左から河正雄氏、夫人の伊豆子氏、門脇市長。



委員の一人ひとりに委嘱状が交付されました。

仙北市社会教育委員に委嘱状

社会教育委員は社会教育法に基づき委員で、15人の方々が委嘱されました。  
社会教育委員の皆さまからは、教育委員会の諮問に応じ、社会教育に関する諸計画の立案や市の社会教育推進に関する様々な助言をいただいています。

▼委員長 佐藤 正美 (再任) ▼委員長職  
務代理者 羽根川 覚 (再任) ▼浅利 重昭  
(再任) ▼阿部 節子 (再任) ▼阿部 陽子  
(再任) ▼大澤 博公 (再任) ▼門脇 トキ  
ヨ (再任) ▼門脇 伸子 (新任) ▼佐藤  
秋夫 (新任) ▼鈴木 勝一 (再任) ▼田村  
雄幸 (再任) ▼土谷 啓子 (再任) ▼廣川  
浩子 (再任) ▼藤村 榮一 (再任) ▼三浦  
栄子 (再任) (五十音順掲載、敬称略)

【任期】  
平成30年2月20日～平成32年2月19日

台湾・高雄国際マラソン  
派遣ランナーが完走報告

2月25日、台湾で高雄国際マラソンが開催され、仙北市から派遣ランナーとして出場した松本成年さんと友永千春さんが市役所角館庁舎を訪れました。

2人は田沢湖マラソンの常連で、松本さんはフルマラソン、友永さんはウルトラハーフマラソン(25km)に出場し、無事完走しました。「大会当日の気温は25度以上で、秋田が真冬の時期に暖かい環境で走ることができた」「沿道の声援に励まされた」などと喜びの報告。

門脇市長は「今後は田沢湖マラソンと高雄国際マラソンのアンバサダーとして、両大会の魅力を発信していただきたい」と労をねぎらいました。



松本成年さん(左)と友永千春さん(右)

大曲支援学校せんぼく校  
手作りの製品を販売開始



生徒たちの作業工程を見学しました。

大曲支援学校せんぼく校では、生徒が授業で製作した製品を4月から(株)トースト(田沢湖田沢字春山 門脇博之代表取締役)が経営する「湖畔の杜レストラン ORA E」で販売することになり、3月6日、同社員を対象とした授業参観が行われました。

社員たちは、生徒が樺細工を使った木工製品を丁寧に作る様子などを興味深く見学しました。

昼食では、同レストランが仙北市産の食材を使ったピラフやコロケ、キッシュなどの料理を提供し、生徒からは「きれいな盛り付けで、キッシュが特に美味しかった」などの感想が聞かれました。



左から青柳市議会議長、秋田ふくしハートネットの久米力理事、仙北市葉草生産組合の佐々木英政組合長、門脇市長。

農業 × 福祉

連携協定締結式

3月8日、市役所西木庁舎で仙北市・社会福祉法人秋田ふくしハートネット・仙北市葉草生産組合による「農福連携協定」の締結式が行われました。  
この協定は、障がい者の就業機会の拡大や薬用植物の栽培力の強化、農地の有効活用など3者の目的がそれぞれ一致したことから実現しました。協定に伴い、ハートネットが運営する指定障害福祉サービス事業所「愛仙」の利用者が同組合で進めているシャクヤクの栽培に携わります。

仙北市葉草生産組合の佐々木英政組合長は「収穫まで4年かかるシャクヤクの栽培には様々な作業があるうえ、作付面積を増やすとそれだけ労働力が必要になる。労働力不足の中で協力いただけることは、とてもありがたい」と話していました。また、社会福祉法人秋田ふくしハートネットの久米力理事は「就業機会が増え、屋外に出ることは障がい者本人にとってもとてもよい。労働力が減少している農業の分野と連携していきたい」と話していました。今後は、3者により具体的な作業内容などを検討していきます。